

「ブルネイ・ビジネスウェビナー」における菊田大使挨拶概要

- 本ウェビナーの開催に尽力された、ジェトロ・シンガポール、ブルネイ経済開発委員会（BEDB）及び講演者の方々に感謝。また、参加して下さった多くの企業の方々の関心の高さに感謝する。
- ブルネイ政府は、ワフサン2035に基づき経済多角化を進めており、持続可能な社会国家を実現するために、海外直接投資の誘致に力を入れている。ブルネイには関心を向けるに値する潜在性と実際の動きが見られ、今回のブルネイ・ビジネスウェビナーはタイムリーかつ興味深い企画である。
- ブルネイは、石油と天然ガスの輸出国というイメージがあると思うが、ここ数年の間に経済構造の変化、すなわち新しいナラティブが起こっている。鉱物燃料という項目を、原油と石油精製品に分けて見ると、2020年以降は、原油の純輸入国となっており、石油精製品が輸出の3割超を占めるという形に輸出入構造が逆転している。
- 2月26日の立法評議会開会式での、国王陛下による演説（Titah）でも、経済多角化の必要性が強調されていた。
- それを受け、3月1日の立法評議会においてアミン首相府大臣兼第二財務経済大臣は以下の旨発言したと報じられている。2024年のGDP成長率は4.2%（1999年以来最高）、2024年の貿易黒字は49億ブルネイ・ドル（対前年比18.1%増）、非石油・ガス部門のGDPへの貢献率は2017年は14.4%であったが2022年以降は50%以上、石油・ガス下流事業、食品、サービス、観光、ICTという5つの主要分野が2017年から2024年の間にGDPを8.4%押し上げ。
- 私自身の印象として、ブルネイの特長を述べれば以下のとおり。人が親切で和やか、かつ優秀。極めて治安が良く、購買力も高い。道路、水・電力、インターネットなどのインフラも整っている。教育水準も高く、ブルネイ大学（UBD）は世界大学ランキングで749校中142位、UNDPの人間開発指数も193か国中55位である。また、若者世代のビジネス感覚も優れており、自分で事業を立ち上げる意欲のある者が多い。
- そして何よりも、政府的安定性があり、カントリーリスクが低い。これは国王の求心力によるところが大きい。国自体の市場規模は小さいものの、ASEAN他マーケットへの拠点として見ると見方が変わってくる。日本ではできないこと、例えば日本国内の規制によりできないようなこともブルネイではできるという指摘もある。
- ブルネイは親日国家であり、日本はそのパートナーたり得る旨自分は訴えている。外交関係樹立40周年を迎えた昨年2024年、二国間関係は戦略的パートナーシップに格上げされ、同年12月には相互の査証免除期間が14日から30日に延長されるなど、日ブルネイ関係は極めて良好である。まずは、ブルネイに来てみて、ビジネスチャンスを見出していただきたい。本ウェビナーが参加者にインパクトのあるものであることを願う。